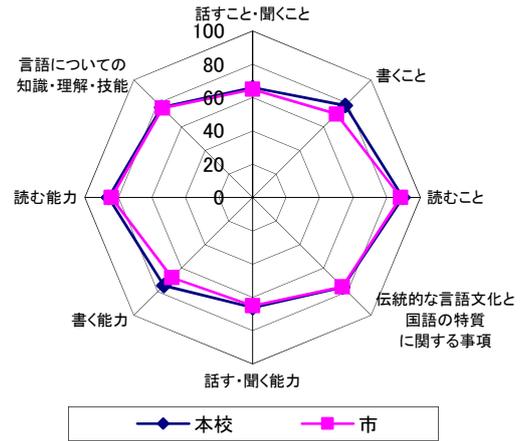


# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.1	65.0	62.9
	書くこと	78.3	70.9	71.3
	読むこと	89.6	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	66.1	65.0	62.9
	書く能力	74.7	68.0	68.0
	読む能力	85.8	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	76.6	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

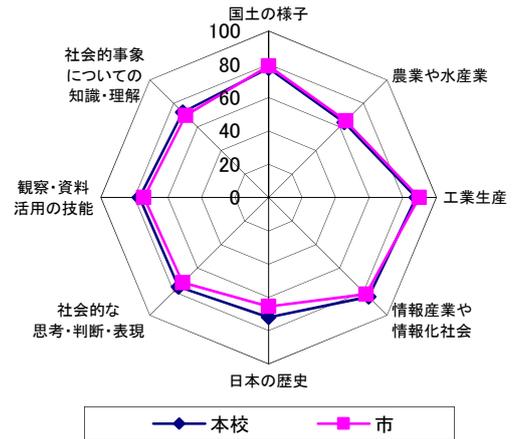
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○市の平均正答率を1.1%上回っており、聞き取りテストでは話し手の意図を考えながら、話合いの内容を理解する設問がよくできていた。</p> <p>●司会者の役割を理解して、話合いの観点に基づいて計画的に情報を関連付ける設問の理解が不十分であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・話合い活動において、話合いの観点を明確にし、集めた情報や出された考えの共通点や関係性を考える活動を取り入れることで、情報や考えのつながりを自分たちで見出せるようにしていく。</p>
書くこと	<p>○市の平均正答率を7.4%上回っており、他の領域と比べて「書くこと」は市を大きく上回っている。特に資料の内容を読み取って適切に文章に書き表すことがよくできていた。</p> <p>○文字数、段落構成など、定められた条件に沿って、読み取った事実を基に自分の意見を書くことや、自分の意見とその理由を区別して書くことがよくできていた。</p>	<p>・国語科に限らず、他教科の学習でも、自分の考えを書く場面を増やすなど、文章を書く力をさらに鍛えていく。</p>
読むこと	<p>○市の平均正答率を1.2%上回っており、目的や必要に応じて場面の描写と登場人物の心情を読み取ることがよくできていた。</p> <p>●文学的な文章において表現の工夫を読み取る設問の理解が不十分であった。</p>	<p>・読書の習慣化を図り、様々な分類の本を読むよう指導していく。新聞を活用した授業を取り入れるなど、説明的文章を読む機会を引き続き意識的に設定していく。</p> <p>・文学的文章では、会話文、行動描写、情景描写、色などに着目させながら登場人物の心情を推察する学習活動を展開し、文章表現の工夫に気付かせていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○市の平均正答率を0.2%上回っており、特に漢字の読みの設問はよくできていた。</p> <p>●第5学年配当漢字を書く設問の理解が不十分であった。</p> <p>●文の構成(述語)を問う設問や国語辞典の使い方の理解が不十分であった。</p>	<p>・既習漢字も練習問題などを活用して繰り返し取り組むと共に、日常の会話や作文で積極的に活用するよう促すことで定着を図っていく。</p> <p>・国語辞典を授業の中で積極的に活用していく。その中で語彙力を高めていく。</p>

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.7	79.1	74.9
	農業や水産業	63.8	65.1	63.7
	工業生産	88.0	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	84.3	82.2	73.1
	日本の歴史	71.9	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	75.7	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	77.0	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	72.5	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

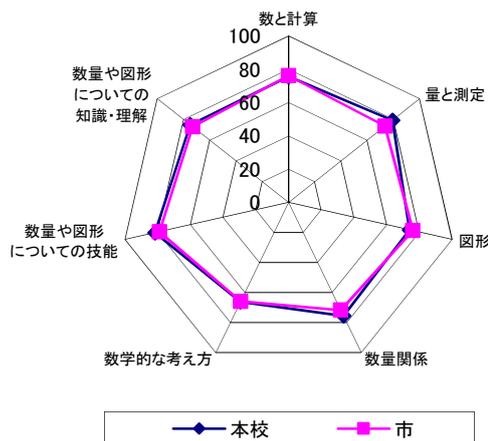
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>●平均正答率は市の平均を1.4%下回っている。特に近隣諸国の位置や名称を問う設問での正答率が低い。</p> <p>○森林資源の育成や保護に関わる設問での正答率はどれも85%を越えており、おおむね定着していることが伺える。</p>	<p>・どの領域においても、基礎的な知識を問う設問での誤答が見られることから、5学年次の学習を再度復習できるように、教科書を見返し要点を確認したり、プリント等での家庭学習を取り入れたりすることで、定着を図っていきたい。</p>
農業や水産業	<p>●平均正答率は市の平均を1.3%下回っている。特に、米作りの基礎的な作業工程を問う設問での誤答が多い。</p> <p>○複数の資料から食料自給率と輸入額の間接関係を問う設問では、高い正答率を示している。</p>	
工業生産	<p>●平均正答率は市の平均を1.7%下回っている。</p> <p>○どの設問も正答率が85%を越えているので、おおむね定着していることが伺える。強いて言えば、工業製品の種類を問う基礎的な設問での誤答が見られる。</p>	
情報産業や情報化社会	<p>○平均正答率は市の平均を2.1%上回っている。特に情報ネットワークの利便性を、資料を基に読み取る設問では、高い正答率を示している。</p>	
日本の歴史	<p>○平均正答率は市の平均を6.5%上回っており、他の領域より高い。このことから、6学年次における学習はおおむね定着していることが伺える。</p> <p>●基礎的な用語を問う設問での誤答が複数ある。</p>	<p>・単に用語を暗記するのではなく、その時代の有名な人物との関連や写真資料など、歴史事象のつながりの中で知識を獲得していけるようにし、さらなる定着を図るようにする。</p>

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.7	76.2	72.9
	量と測定	79.3	73.6	70.6
	図形	74.0	76.0	72.1
	数量関係	75.6	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	66.1	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	81.6	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	74.9	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

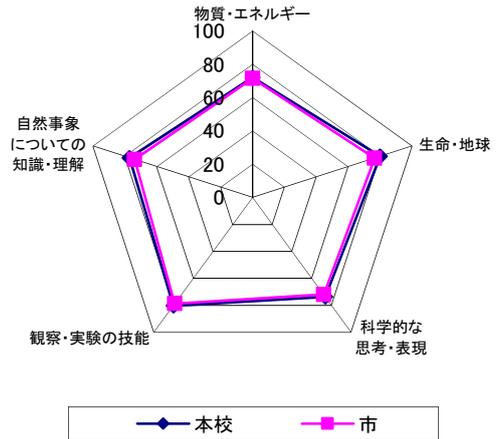
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均をわずかではあるが0.5%下回っている。</p> <p>○小数のかけ算やわり算、分数の計算においては、市の平均を上回っており、十分な習熟が見られる。</p> <p>●文章問題に合う図を選ぶ問題では、市の平均を11.7%も下回っており、図を用いて数量の関係を考えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算力はおおむね定着しているが、分数の問題において約分を見落とす傾向が高いので、計算問題に多く取り組みさせることで、さらに正確さを求めていきたい。</li> <li>・小数や分数の計算に限らず、他領域での学習においても、計算の仕方を数直線や図を用いて考える活動を積極的に取り入れる。</li> </ul>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均を5.7%上回っており、他の領域より高い。</p> <p>○「面積と体積」の問題では、三角形と円の面積のどちらも90%以上の正答率である。</p> <p>●「単位量あたりの大きさ・速さ」の1㎡あたりの人数を求める式を選ぶ問題では、市の平均を5.3%上回っているものの、正答率が35.8%と低い傾向を示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単位量あたりの大きさ」の問題では、数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながら定着を図りたい。</li> <li>・文章問題では、何を問われているのかを正確に捉えられるように指導を行う。</li> <li>・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、つながりがあるので「くらべられる量」「もとにする量」などの関係を十分に理解させ、習熟を図る。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を2%下回っている。</p> <p>○3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題では、95%の正答率である。</p> <p>●線対称か点対称かを正しく説明した文を選択する問題では、市の平均を9.5%も下回っており、線対称・点対称の性質の理解が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対称な図形」においては、作図や折る、回すなどの活動をさらに取り入れたり、対応する頂点や辺、対称の軸や中心との関係に着目させたりして、線対称と点対称の性質に気付かせたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.2	71.6	67.4
	生命・地球	80.0	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	73.8	72.1	68.8
	観察・実験の技能	80.3	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	77.1	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は市よりも上回っている。</p> <p>○ふりこの周期はふりこの長さによって決まることがよく理解されており、高い正答率を示している。</p> <p>●ミョウバンの水溶液の重さを求める問題では、市の正答率を9.2%下回っている。</p>	<p>・基本的な知識だけでなく、実験や観察の意味を正しくとらえて取り組ませ、結果から考えられることを丁寧に押さえた指導を行う。</p> <p>・水溶液に関する単元では、正確に理解していない児童が多く見受けられることから、ろ紙の役割や温度との関係、質量は変わらないことなどを、適時復習を繰り返すことで、定着を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、市よりも上回っている。人のたんじょうに関する理解ができていて、受精卵、へその緒とたいばんを答える問題では、市の平均よりも4～9%高い正答率を示している。</p> <p>●月と太陽の内容では、太陽と月の位置関係を説明する問題が、市の正答率を1.7%下回っている。</p>	<p>・生命・地球に関する図書資料や映像資料を多く活用し、実験や観察が難しい内容についての定着につなげていく。</p> <p>・月や地球の動きといった観察実験のしにくい単元においては、映像資料の活用や模型による演示を取り入れて、知識の定着につなげていく指導を行う。</p>
		<p>・既習漢字も練習問題などを活用して繰り返し取り組むと共に、日常の会話や作文で積極的に活用するよう促すことで定着を図っていく。</p> <p>・国語辞典を授業の中で積極的に活用していく。その中で語彙力を高めていく。</p>